

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	322利便性の高い公共交通体系の充実		
施策のねらい (めざす姿)	環境に配慮した公共交通を利用して、目的地まで円滑に移動できています。連続立体交差事業等の進展により、交通渋滞が解消されています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	マネージャー氏名	若泉 哲也

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	北総鉄道運賃値下げ補助については、補助期間である5年が経過し、期間の延長はしない事となった。コミュニティバスの増収策については、利便性の向上をすることで利用者を増やし増収につなげることを、運営検討委員会を立ち上げ総合的な検討を行う。	③改革・改善内容	コミュニティバスについては、運行形態の見直しを実施したが、利用者や市民の意見を伺い、見直しの成果の検証を行っていく必要がある。北総線沿線活性化や運賃問題には、周辺市と連携を図っていく。
②①に基づく取り組み結果	北総鉄道については、北総線沿線地域活性化協議会を設立し、地域活性化のための活動を行った。コミュニティバスについては、運営検討会議での結果を受け、平成28年11月より遅延対策、増便、週7日運行など、運行形態の見直しを実施した。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市民(公共交通利用者)	意図(対象をどうするのか)	買い物、通勤、通学及び公共施設への移動手段の確保
②施策の概要	鉄道、バス、タクシーなどの公共交通網の充実を図る。また、周辺市と連携し、北総線沿線の活性化により、北総線の利用増による市民が利用しやすい安定した運行に寄与する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化や、高齢者の交通事故の増加などから、さらなる公共交通機関の充実が求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27～28年度の施策の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの運行形態の見直しを実施した。 ・北総線沿線地域活性化協議会の設立し、活動を開始した。 						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目標値(32年度)
	i	鉄道駅乗降客数(1日あたり)	人	191,611	194,400	調査中	200,000
	ii	市内バス利用者数(1日あたり)	人	1,313	1,305	調査中	2,000
	iii						
③基本事業成果指標	i	新京成線連続立体交差事業進捗率	%	54	59	72	94
	ii	公共交通利用者数	人	192,924	193,705	調査中	202,000
	iii	駅前広場整備数	箇所	3	3	3	5
	iv	市内駅エレベータ・エスカレータ設置率	%	83	83	83	100
	v						
	vi						
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	平成27年度決算	平成28年度決算	市民一人あたり事業費(28年度決算)		平成29年度予算		
事業費(千円)	419,720	1,061,709	(単位:円) 9,725 円		702,352		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	コミュニティバスの運行形態の見直し成果の検証と、高齢者を中心とした利用者のニーズの把握とその検証が必要である。		
②総合評価	1達成	③総合評価の理由	コミュニティバスの運行形態の見直しにより、利用者の増加が見られた。

V 今後の方向性

①成果の方向性	→維持	②コストの方向性	→維持
③特に重点化する事務事業	コミュニティバス運行助成事業		
④上記方向性の説明	高齢化の進行により、移動手段として、コミュニティバスをはじめとする公共交通機関の充実に対する要望はますます高まる。		